

冷凍食品技術研究

(Frozen Foods Technical Research)

NO. 59
2003年6月
発行

20周年記念号

目次

	頁
冷凍食品技術研究会20周年に寄せて	1
社団法人 日本冷凍食品協会 専務理事 山岸 晴 二	1
財団法人 日本冷凍食品検査協会 理事長 長 晃	2
財団法人 日本冷凍食品検査協会 前理事長 熊谷 義 光	3
東京農業大学 非常勤講師 藤木 正 一	5
(元 味の素冷凍食品)	
伊勢丸食品株式会社 代表取締役社長 遠藤 英 則	6
(元 ニチレイ)	
(有) 小杉食品技術事務所 代表取締役 小杉 直 輝	7
(元 味の素)	
元 雪印乳業 鍋田 幸 藏	8
千葉畜産工業株式会社 代表取締役社長 野口 正 見	10
(元 ニチレイ)	
冷凍食品技術研究会 代表理事 千葉 充 幸	11
(株 ニチレイ)	
冷凍食品技術研究会20周年史年表	12
〈日冷検情報〉	32
〈編集後記〉	34

冷凍食品技術研究会

冷凍食品技術研究会20周年に寄せて



(社) 日本冷凍食品協会
専務理事 山 岸 晴 二

冷凍食品技術研究会の20周年記念をお迎えされまして、心からお慶び申し上げます。

また、業界内の厳しい競争の中であっても、冷凍食品業界発展のため、技術水準を常に向上させて頂いている貴研究会の活動に対して、心から御礼申し上げます。

冷凍食品の国内生産量は、この20年間に70万トンから150万トンへと、倍以上の驚異的な伸びを示しました。その内容は、調理食品、菓子類及び水産物等の増加が寄与しております。特に、今では調理食品が、冷凍食品全体の83%を占めており、消費者の需要に対応して、また、メーカーからの提案等として、皆さんの技術を生かした新しい調理食品製品が続々と出荷されて行くところが想像できます。

なお、最近の数年においては、冷凍食品の国内生産量の伸びが鈍化しているものの、毎年、何とか若干の増加が記録されていました。しかし、平成12年には、僅かではありましたが、遂に、史上初の国内生産量減少となりました。以後においては、13年には150万トンを回復したものの、14年には再び150万トンを下回っております。

このように、国内生産量が伸び悩んでいることについては、勿論、中国をはじめとした海外生産が毎年増加されていることも、国内生産に影響を与えていると見られますが、むしろ最近の国内の状況が大きく影響しているものと考えられます。

それは、前述したように、国内冷凍食品生産が150万トン前後で足踏みしているのは、ひとつには、最近に多発した食品関係の不祥事に対

して消費者の加工食品離れが起こったこと、また、一方、わが国の経済についても、引き続き「改革なくして成長なし」の方針の下、「痛みを伴う改革」が継続されており、厳しい雇用状況や将来への不安から、低迷する個人消費についても依然厳しい状態が続くものと見られ、当分は、消費者の財布の紐は緩められることは無さそうであります。

そこで、日本冷凍食品協会は、昨年の中国冷凍ホウレン草等の残留農薬問題により、消費者に冷凍食品全体への不安感を与えてしまったことから、本年の特別普及事業においては、今年の冷凍ホウレン草がいかにか安全であるということ、あらゆる手段を使用してアピールすることにしております。そして、その結果、冷凍野菜のみならず、冷凍食品全体に対する消費者の信頼を取り戻すことを目的として努力して参ります。そして、各メーカーの優れた技術力をフルに注入された新製品が消費者を虜にして、おおいに市場を拡大していただける事を楽しみにしております。

なお、当協会は、冷凍食品の品質と安全を確保するため、当協会が実施している自主検査制度については、当協会創立以来の基準を改正し、日本冷凍食品検査協会の御助力を頂き、本年度より「HACCP手法を考慮した確認工場の施設・設備基準」を導入し、自主検査制度の一層のレベルアップを図りました。

20周年を迎えられた貴研究会が、今後とも冷凍食品業界発展のため、更なるご活躍頂けるようお願い致します。

冷凍食品技術研究会発足20周年を祝して

—昭和ヒトケタ世代賛歌—



(財) 日本冷凍食品検査協会
理事長 長 晃

先日、冷凍食品技術研究会理事会後の会合で、編集委員長の小泉榮一郎氏から20周年の挨拶文を書いて欲しいというご依頼があった。

小泉氏とのお付き合いは実はあまり深くない。何回かお話をさせていただいただけだ。しかし、何故かその会話が楽しい。気持ちがよく通じた。しばらくして気がついた。小泉氏は昭和7年生まれ、私は10年（3月の早生まれだから、学齢としては9年）だから、同じ昭和ヒトケタ世代に属する。同じ時代の空気を吸い、同じような生き方をしてきたはずだ。

昭和ヒトケタ世代は、物心がついた頃、すでに戦争が始まっていた。平和も民主主義も贅沢も知らずに「軍国少年」として成長した。どの家庭も兄弟が多かった。食卓は戦場で、早く食べないと食べるものがなくなった。空襲警報に先立つ警戒警報のサイレンの段階で、街中から灯火が消えた。

小学校5年生で終戦を迎えた。神田神保町の中学校に通っていたとき、白いヘルメット姿の進駐軍MP（憲兵）を乗せた白塗りのジープが駿河台下の大通り（靖国通り）を颯爽と走り抜けて行った様子を鮮明に覚えている。

その後、朝鮮戦争を契機に日本は高度経済成長の時代を迎え、やがて経済力では米国を凌ぎ「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた時期を一瞬経験した。今から10数年前、槿花一朝の夢、日本経済は一転して底知れぬデフレ不況の底に沈んだ。大部分の昭和ヒトケタは、戦中戦後のどん底から「坂の上の雲」を目指して全力疾走した。そしてその絶頂期に現役を引退

した。このことを称して「勝ち組」という人もいるようだ。

しかし、やはりすばらしい時代を経験させて頂いた。小泉氏も、談笑の中で、最近お読みになった佐々淳行著「軍国少年 佐々淳行一父と母と伊藤先生」の話をされた。佐々氏は昭和5年東京市青山に生まれた人で、戦時中の小学校の恩師と級友たちの思い出を熱い心で書いている。そういえば、同様の時代を経験された上智大の渡部昇一名誉教授（英語学）もその著書の中で繰り返し中学校時代の英語の佐藤順太先生の思い出を書いている。昔をたどれば夏目漱石と寺田寅彦、寺田寅彦と中谷宇吉郎など師弟愛の話は数多い。（最近では、師弟愛という言葉自体あまり聞かなくなったような気がする。）

私も、東京の下町の小学校で、担任の及川先生からしっかりした教育を受けた。「返事をするときはハイと言いなさい。」「寒い時でもズボンのポケットに手を入れるな。」「小学生のときに教わった言葉は今でもはっきりと覚えている。私のその後の生き方を決めてしまったようなところがある。

あの時代の人には「ころごし」があった。唱歌「ふるさと」の三番「ころごしを果たしていつの日にか帰らん 山は青きふるさと 水は清きふるさと」はあの時代の心を映している。

昭和ヒトケタ世代の代表、小泉氏にはいつまでもお元気でこの研究会を30周年、40周年まで育てていただきたい。

以上



(財) 日本冷凍食品検査協会
前理事長 熊谷 義光

冷凍食品技術研究会も早いもので今年で20周年を迎えます。心からお慶び申し上げます。

顧りみますと、20年前、私は神戸から東京本部に転勤になり、着任のご挨拶に在京各社や工場を訪れた折、関西で活発な活動をしている冷凍食品技術研究会のような技術研究会を関東にも設立しては如何ですかという有難いお言葉やご要望を頂き、早速設立発起人会を開いて会則や入会案内等を作成し、多数のご参加を頂いて1983年7月に冷凍食品技術研究会（関東）が設立されました。あれから20年、歴代の会長や役員の方々のご盡力と会員の皆様のご支援のお陰で技術研究会も益々充実し、発展する中で20周年を迎えることができましたことは、感慨無量のものがあります。

想えばこの20年は変化の激しい時代でした。また長びく景気の低迷にも拘らず、冷凍食品は堅調に推移し、生産量も70万トンから150万トンへ飛躍的に伸長しました。これは、①製造技術の進歩により、冷凍食品の品質と味が一段と向上したこと、②かつて冷凍食品の5大品目といわれたコロッケ、ハンバーグ、エビフライ、シューマイ・ギョウザに代って新に冷凍米飯類や冷凍めん類が開発され、新しい市場が開拓されたこと、③電子レンジの普及に伴い、家庭用調理食品を中心に電子レンジ対応冷凍食品が開発され、調理の簡便性が向上して需要が増大し、調理冷凍食品の主流になっていること等、冷凍食品は最近の食生活の多様化、簡便化、合理化ニーズにマッチした商品として評価されていることがその要因として挙げられると思います。

一方、こうした時代のニーズにマッチした製品供給を可能にした冷凍食品の開発・製造技術の進歩は目ざましいものがあります。例えば冷凍ピラフなど炊飯米のバラ冷凍技術や冷凍うどん

ゆで直後の食感・食味のよさを保持する冷凍技術とこれらの生産工程のイン・ライン・フリージングシステムの確立、電子レンジ加熱に伴う加熱ムラや内部からの水分移行等による品質劣化の防止技術等、電子レンジ対応冷凍食品の高度な技術開発は高く評価される所であり、

また衛生管理では、大腸菌（O-157）による大型食中毒を契機に食品の安全確保に対する社会的関心が高まり、品質保証の時代を迎えて、これまでの最終製品の抜取検査（Final Check）に重点をおいたシステムから、製造工程検査（Process Check）システムが重視される時代となり、今やグローバル・スタンダードとなったHACCPシステムやISO9000シリーズの導入が進んでおります。

更に近年、牛のBSE問題、輸入冷凍野菜の残留農薬問題等に対応し、食品の品質・安全保障に対する消費者の信頼を確保するため、製造段階だけでなく原材料の生産段階から加工・出荷・流通・消費に至る各段階で信頼と安心を確保する手法として、トレーサビリティシステムの開発・構築が検討されております。

冷凍食品技術研究会では、こうした時代、時代の変化に対応した製造技術や品質・衛生管理技術について講演会やシンポジウムの開催、工場見学等を通じまして会員各社の技術レベルの向上に些かなりとも貢献して参りました。また、最新の技術情報につきましては会報として「冷凍食品技術情報」誌を年4回発行して会員のご参考に供しております。現在59号に達しておりますが、この編集を担当しておられるチーフの小泉さんや各社からの編集委員の方々のご努力に心から感謝する次第です。

冷凍工場にとって企業繁栄の基盤は「技術

力」であり、会員共通の課題である冷凍食品の製造技術、品質・衛生管理技術の向上に向けて、これからも皆さんの、皆さんのためになる技術研究会として一層のご発展を祈念してご挨拶いたします。



東京農業大学
非常勤講師 藤木 正一
(元 味の素冷凍食品)

冷凍食品技術研究会が20周年を迎えられること本当におめでとうございます。またよくぞ続いてきたものと、月並みですが感無量でもあります。

熊谷前理事長のご尽力で発足してから、事務局の特に故村上顧問はじめ皆様や会員の多くの方々のご努力でこの時を迎えることができ誠に同慶にたえません。

当初は会員所属の各社で独自に、また少数の担当者が手探りで悪戦苦闘していた時期でしたが、会誌、セミナー、工場見学などいろいろな機会を通じて、会員同士が体験を紹介し合い、お互いのレベルの向上をはかる場として機能してきたことが最も大きな成果ではなかったかと思えます。営業ではライバルとしてしのぎをけずっていても、研究会の技術屋同士は、同じ仕事の仲間として腹を割った付き合いが出来るのが実にいいですね。

また会誌の存在が大きいですね。時期にあった内容の新しさと、充実度の高い会誌が着実に発刊され続けていることも、この研究会継続の原動力となっており、小泉栄一郎氏をはじめ編集委員諸氏の熱意と、並々ならぬご苦勞のお陰であることを覚え心から感謝いたします。

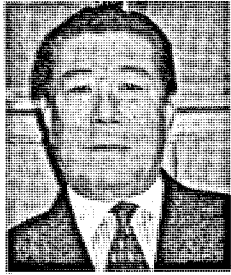
前半の10年間は食品の多様化が進み冷凍食品の価値や必然性が社会に認知された時期ではなかったかと思えます。生産技術も大きな変化と進歩をしてきました。製品そのものを作る人や、機器・設備を中心に着眼して、作業改善、歩留・良品率・品位向上などによる生産性向上に努めて目覚ましい成果を上げ、価格の安定と需要の増加を実現してきました。引き続き、直接生産の周辺作業である洗浄、殺菌、切り替え段取りなどを含めた総合時間効率を改善し、また

開発、生産、販売の直結、即応性・柔軟性などの全社規模での管理技術の重要性も高まってまいりました。

いつの時代も大きな変化に遭遇しますが、後半、最近の10年間は従来と質の異なる激変の時代だったのではないのでしょうか。順調に生産を伸ばしてきた冷凍食品も外食産業の低調などの影響もあり量の伸びが鈍化し、生産金額はデフレ、価格破壊などの影響で量の伸びを下回る状況が続いています。時代の変化・消費者の変化に対して対応できず、従来ながらの経営・管理体制を続けていた企業が、品質、表示などで大きな問題を起こし、食品企業としての根幹を揺るがす事件も多発しました。このような趨勢の中で、冷凍食品産業界も再編成が進んでいます。海外生産も定着して、量的にも増加の一途ですが、思いもかけないような品質、農薬問題、ごく最近では新型肺炎（SARS）の発生など新しい事態への対応は息をつく暇もない状態です。

冷凍食品は変化対応価値創出産業の典型であると常々考えてきました。時代・時期の必要、変化に即応して、変えてはいけぬ原点を確認しながら、変えなければいけないことは何かをしっかりと点検して、断固として変えていくことが重要だと思います。しかも迅速に、企業全体に浸透させていかなければなりません。

当研究会は、技術屋を中心とした集まりではありますが、今の時代は技術だ営業だといっていることは許されません。企業の重要な機能を担う一員として全体に目配りをしながら、より信頼に応えられる食品企業を目指して努力を重ねましょう。この研究会を大いに活用してお互いに研鑽し合おうではありませんか。



伊勢丸食品株式会社
代表取締役社長 遠藤 英 則
(元 ニチレイ)

10周年記念の挨拶文は、当時の勤務地シアトルから送らせて戴きました。はや10年の歳月が流れたんですね。

何はともあれ、冷凍食品技術研究会発足20周年、人間であれば成人式を迎えられました事、お慶び申し上げます。

当研究会発足当時は、冷食生産数量が70万トン弱、工場出荷金額は3800億程度で現在の約半分の規模でした。当研究会はメーカー各社が、競合の中にも協調し合い、お互いの技術水準を高め、冷凍食品事業の発展を図ろうという主旨で生まれ、そしてその役割を果たして来ていると実感しております。

又、当研究会のメンバーは皆信頼出来る素晴らしい人達で、会を通してお会い出来た事を大変幸せに思っております。唯、村上さん、有馬さんのご逝去が残念でなりません。

さて昨今の冷食業界は、押し寄せるグローバル化や、安全・安心に対する対応、安売り対策等に精いっぱい、大型商品の開発、技術の革新が手薄になり足踏み状態にある様です。この状態が数年続いています、これが常態化するとその様な企業、又は業態は急速に衰退する事は目に見えております。

全ての仕事、全ての企業の主役は人です。魅力のない仕事や企業には、人材は集まらないどころか、逃げ出します。

冷凍食品協会の江頭会長が事ある毎に訴えておられる、技術革新、利益、広告・告知そして、不祥事の防止。魅力のある業界にするには必須条件です。

これを実現する為に、今こそ技術部門の力が必要であると確信します。私は「技術」という言葉については、唐津一氏の定義を常に念頭に置いて仕事に当たっております。

それは「技術」とは、物をつくる事、そしてその物は売れて、採算性のある事。この条件を満たさなければ「技術」などと言えない。という事です。そうなる、技術部門の人間に求められるのは、マーケティング力です。私は営業じゃないから、それは困難だ、と思われるかも知れないが、簡単な事です。自分が、家族が、従業員が、友人が生活者であるし身の廻りには食品以外にも人の心を捕える物が沢山転がっている。基本的な人間の欲望というか、ウォンツ、例えば、若くありたい、美しくありたい、健康でありたい、etc. を意識して、得意の技術を駆使し、物をつくる事です。ついでに、営業も開発や製造の勉強をしなければ、通用しない時代です。

日本の国は、多くの資源を海外より購入しなければならぬ国です。そのお金を生むには知的財産権によるロイアリティや製造業による不可価値です。とるに足らない弊社でも従業員と共に少しでも国の為に役だっているという自負と誇りを持って、仕事に当たっています。

冷食業界も海外製品との価格競争で苦戦を強いられていますが、有利な面、不利な面をよく検討して対応すれば、道はいくらでもあります。多くの評論家のような人達が、日本の企業(家)全てが、自信を失っているとか、元気が無いとか訳知り顔で言っているが、腹立たしい事です。私の廻りを見ても、元気で明るく自信を持って仕事に立ち向かっている人達は沢山居ります。

当研究会はそんな仲間の会である事を切望しております。

今後共、活発な交流を通じて、技術研鑽を積み、魅力溢れる冷食業界の構築に向けて邁進するために、冷凍食品技術研究会の益々のご発展と会員皆様のご健勝を祈念致します。



(有) 小杉食品技術事務所
代表取締役 小杉 直輝
(元 味の素)

冷凍食品技術研究会創立20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

1983年の創立の為に冷凍食品検査協会の熊谷常務理事より電話をいただいたのは前年の頃ではなかったかと思えます。

私はその頃、味の素の本社冷凍食品部に所属しておりましたが、熊谷さんから関西では冷凍食品メーカーの技術者の交流の会を持って年に何回か情報交換を行っているが、関東でもそのような会を作らないかという相談を受けたのがこの会に関わった最初です。

20年の経過の中で当時の設立に関わったメンバーで第2代の代表理事を努められた有馬氏、検査協会の村上理事が亡くなられたことは非常に残念に思っています。

第4代の代表理事に就任したのは確か1989年頃と思いますが、この会で最も思い出深いのが私の代表理事時代に実施した研究会主催の台湾食品工場視察旅行でした。

平成2年2月に5泊6日の日程で台北から高雄、墾丁の食品工場及び新竹の食品研究所を視察し、技術交流の目的で現地の工場の責任者と意見交換と同時にメンバーから一言ずつ提言を行ったのが思い出として残っています。

台湾の冷食大手の山城工場のラン園を見学したときにデンドロディウムファレノブシスを2株貰いました。こっそり鞆に忍ばせ持ち帰ったのが今でも花を付けています。

現在中国が冷凍食品についても我が国の輸出基地として隆盛を極めていますが、その当時は台湾がタイと並び日本への冷凍食品、特に冷凍野菜、冷凍のブラックタイガー、ウナギの蒲焼きなどの商品の輸出国として非常に深い関係を持っていました。丁度この頃、台湾にも冷凍食品協会が造られ、我が国との技術交流が盛んに

行われました。

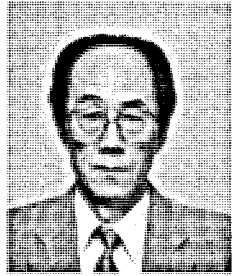
代表理事を辞退したのは1991年で、私が味の素を退社した年でもあります。研究会から代表理事を努めた経験者として会の顧問第1号にさせていただき、以来12年間この会に参加させていただいています。

6月の工場見学と総会の一泊旅行と年末の研修講演会には出来るだけ出席するようにつとめていますが、出席者の顔ぶれも年々新しくなって古いメンバーが少なくなっているのも寂しく感じます。

私自身は相変わらず食品工場の改善指導に精を出しています。特に最近力を入れているのは国内生産の空洞化を防ぐために冷凍食品でも生産性を高め、ジャスト、イン、タイム生産が出来るように指導して回っています。

冷凍食品技術研究会誌を見ると非常に広範な技術と、日々更新され、発行される国の条例などをタイムリーにとらえて掲載されています。私のように会社を離れて独立したコンサルタントにとってこの情報は大変役に立っています。雑誌を編集されている編集委員の皆さんに感謝しています。

これからも新しい技術情報の発信源として、また冷凍食品に携わる技術者のお互いが何でも話し合え、相談できる会としてますます発展されることを祈っています。



鍋田 幸蔵
(元 雪印乳業)

冷凍食品技術研究会が発足して、早や20周年の節目とのご連絡に接して、月並みの表現ながら、「光陰矢の如し」の感慨に浸る08黄昏族の心情でもあります。誠に目出度うございます。

小生も第一線を退いてかなりの年月を経過している現況で、文字通りの「第二の人生」謳歌させて貰っておる次第であります。奉職時代の後半の10数年間は苦心惨澹の体験はあったにせよ生販管の一体を狙い目に所謂「一枚岩」志向で仲間と全力投球出来た懐かしい思い出に浸る事も往々ありますが、同業の会員各社の皆様とも「冷凍食品技術研究会」会合や見学会、講演等通じて多大のご支援、ご協力頂いた事も合わせ感謝致しております。常にご送付頂く機関誌の『冷凍食品技術研究』を拝読させて頂いておりますし、会員各社の諸兄の益々のご研鑽、ご活躍振りに触れては、業界発展に『切磋琢磨』のご様子に心強い感銘を受けておる次第でもあります。今後より一層の消費者からの期待と需要が右肩上がりのトレンドは必定予測に応える「品質向上、確保」に向けてのご努力を祈念するものです。

食品に対する消費者の関心、期待は今後益々厳しくなる趨勢を辿り、これらに応える為の各メーカーの課題も難航を余儀なくされるハズでしょうが、企業の発展、存続を未来永劫貫くからには、『良心に恥じない商品提供』以外の道は無いものと信じておりますし、需要量も増大、アイテムの数、裾野の広い冷凍食品は原料調達、製造工程面での品質確保が何よりも優先して然るべきものと再認識する必要ありと感ずる昨今でもあります。

手前味噌で恐縮ですが、小生が遠い昔入社(S32年)した時代の見習い期間等を通して諸

先輩から口酸っぱく指導された『掃除7部仕事3部の姿勢』が「物造りの根っこだ!」と叩かれ、仕込まれた経験を思い出します。[当初は7とか3とかの数字がナカナカ理解出来ず?…でしたが]。前述の様に今様に表現すれば『徹底した5S管理の遂行での良い物造り』と言う事でしょう。

近年、HACCP、トレーサビリティ等『食の安全確立の機運の高まり』に対応する『技術者の良心を商品に埋め込む取り組み』が商品の区別無く何より優先されねばならない世相になったと感じております。

キャノンの御手洗社長(67)はニッサンのカルロス・ゴーン社長らと同様マスコミ、メディアに登場での有名人ですが、氏は『変化は進歩を誕生させる』『製造業は品質とコストが全て』が信条として社員を鼓舞して、浚刺とした率先垂範の代表株、企業風土は常に風通し良く円滑化して、『有言実行で実績示す』事が「男のロマンなのか?」と思ってみたりもしております。

小生が永年世話になった雪印乳業も近年皆様ご存じの如く『食中毒事件』や『雪食肉偽装事件』を勃発させ社会的に信用失墜させ消費者始め関係者に多大のご迷惑掛けて汗顔の至りと断腸の思いでもあります。此のダブル不祥事で本業は乳製品特化でスリム化、他事業は分離や合併等で夫々再建取り組み開始となりましたが、今後の道程は厳しい試練の道程である事は確実です。『信用失墜は一瞬、信頼の回復は気の遠くなる苦難、努力覚悟』なのです。此の事例が示す様に、法令順守(コンプライアンス)に立脚した真面目な、地道な行動規範の実践に徹する以外に道はないと実感を新たにさせられています。

時折付近のスーパーに出かける機会がありますが、何時も気になる「冷凍食品全て4割引セール」の「定番化」現象首傾げざるを得ない次第ですが、何とか是正正常化出来ないものかの感じでもありますか?

過去10周年の時に会報原稿を執筆させて頂いた中に「消費者あつての物造り→CS[顧客満足]に若干触れた積もりですが、生産された現行品、開発品は「お客に満足感味わえて貰えるのか?」を常時念頭に入れた生産体制市場への供給がメーカーに課せられた使命だと再認識すべきなのでしょう。

最近書店で眼に付く「日野原 重明氏→聖路

加国際病院理事長92歳」執筆書籍の中で「生き方上手→人間75歳から新老人の仲間入り、それまでの10年間は準備、助走期間である」と言う。こんな書物にも刺激されたり、周囲の方々に見る「第二の人生」様々を観察、学ぶべき点は多々ありとの印象受けながらも今後自分なりに意義ある余命を過ごして行こうと思うこの頃です。

此の度の冷凍食品技術研究会の発足20周年を迎えるに当たり、衷心より同慶の至りとお祝い申し上げ、会員諸兄の今後のご壮健、ご自愛、ご発展の程を祈り上げ一筆添えた次第であります。



千葉畜産工業株式会社
代表取締役社長 野口 正見
(元 ニチレイ)

冷凍食品技術研究会（関東）の20周年記念心からお慶び申し上げます。

関東、関西の両技術研究会代表理事を勤めさせて頂いた者として、20周年という節目を迎えたことは大変うれしく思います。会員の皆様のご支援はもとよりですが日本冷凍食品検査協会様の後楯と事務局を担当された方々の御努力の賜物と感謝しております。

特に元専務理事の故村上さんには陰に陽にこの会の運営を支えて戴いたことが20周年を迎えられたと感謝しております。私も代表理事時代、村上さんの豊富な経験と幅広い人脈でシンポジウムの講師の方々への出演交渉、工場見学、総会開催等助けていただきました。形見にご愛用の英和事典を奥様に所望し座右としております。

私が冷凍食品の製造を担当し始めたのは1969年でありました。日本冷凍食品協会が設立された年でもありました。冷凍食品に関する諸統計ではその年の生産量は12万3千トンでありました。今や150万トンに近く、10倍以上の発展を遂げました。この間、品質管理技術、製造技術、調理技術等の進歩や関連業界の技術革新、技術者集団の絶えざる努力が躍進の原動力となったと確信しております。

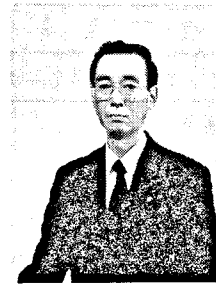
バブルの崩壊後、デフレは食の分野にも押し寄せ、低価格化指向は益々強まり、中国やタイへの生産拠点移設は加速度的に進行し、調理冷凍食品、冷凍野菜が大量に輸入される時代となりました。このことは技術移転でもあるわけで、冷凍食品の技術は大きく貢献していると考えられます。当技術研究会の会誌である《冷凍技術研究》は2003年3月発行で58冊目となりました。品質管理、改正法令の解説、商品開発、原材料の解説、国内外の情報紹介と多岐にわたり時代を反映した記事は20年間の技術史的な側面がう

かがわれます。これからの多難な時代への道標として活用されんことをねがいます。永年に渡り編集長としてご苦労された小泉栄一郎さん、時々編集委員のみなさまに敬意を表します。これからも充実した誌面作りを期待してやみません。

ここ数年食品業界は数々の事件が続きました。BSE、鶏インフルエンザ、偽装問題、残留農薬、アレルギー、添加物の表示問題等マスコミを販わし、回収のお詫び広告が新聞紙上に掲載されました。これに伴い消費者の安心安全に対する関心は健康指向への強い欲求とも重なり、厳しさを増しています。ひとつ間違えば企業の存亡にまで進行してしまう状況でした。各企業では意識改革と危機管理体制の強化、情報の開示等パラダイムの変換を迫られ、製造現場ではHACCP、ISO9001のシステム導入、選別強化検査機器への設備投資等実施してきましたが、特に原材料の安全性への不信任はトレーサビリティの確立と相まって、品質保証の重要な課題と認識されています。

我々技術屋集団は工場の生産工程に留まらず、原料の生産即ち野菜なら畑、ブロイラーなら養鶏場、食肉なら飼育場も生産工程と認識すべきであります。この工場の外の工程にも生産技術を及ぼしてゆかねばなりません。土壌、肥料、農薬、飼料、飼育の技術も体得する必要を痛感します。また技術的側面が限りなく存在するように推測されます。技術研究会もこれらの分野にも研鑽の目をむけられることを願うものであります。

技術研究会の21世紀におけるさらなる発展を願ってやみません。



冷凍食品技術研究会
代表理事 千葉 充幸
(株)ニチレイ

私は昨年より冷凍食品技術研究会の代表理事をお引受けさせて頂いております(株)ニチレイの千葉でございます。本年度は冷凍食品技術研究会が発足して20周年との話を聞きまして、驚きと感慨を抱いており、20年間に亘り冷凍食品業界の健全な発展を願い、特に技術面からの支援を支えて下さった会員各位及び諸先輩方々に誌面をお借りして深い敬意を表したいと思っております。

私自身、冷凍食品技術研究会への出席頻度はあまり多くはありませんでした。どちらかと言えば水産衛生協議会の出席回数のほうが多かったように記憶しておりますが、当時私の上司でありました遠藤氏に進められて冷凍食品技術研究会の忘年会や新年会に参加し、大変楽しく、また和やかな時間を過ごさせて頂いた事を覚えております。特に、すでにご逝去された村上氏には公私共々お世話になり、また業界の著名人を紹介して戴き大変感謝しております。この20周年を迎えた本会に村上氏の姿がない事は私にとっても残念でなりません。

記念すべきこの年の代表理事を仰せつかる事に責任を感じるわけですが、本年は記念事業として『冷凍食品技術研究会のホームページ』を開発しようと考えております。現在、関係者の協力を戴き、全体フレームの構想に入っております。予算の都合上、立派なホームページとはなりません(財)日本冷凍食品検査協会様のサーバーを利用して戴き、会員各位に役立つものをと努力致します。更に会員各社のご要望を随時取り入れながら、ホームページの充実を図って生きたいと思っております。残念ながら現時点では詳しい内容まで言及できませんが、6月開催予定の総会には、基本構想と今後の運用に関してご説明出来るように準備しております。

本会を更に発展させていくには、会員各社のご協力は勿論ですが、新会員の勧誘にも目を向

けなければなりません。冷凍食品技術研究会が今後10年、20年と継続していく為には、各社若手のバイタリティーも必要となりましょう。その意味では、本会が魅力的な活動をし続けていると言う評価が新しい会員の参加を促す事につながります。是非皆さんのご協力をお願い致します。

さて、この食品業界を取巻く環境は、大きく変わり、業界・企業の以前の常識は、現在の社会常識として通用しなくなりつつあります。この近年の事件・事故を思い浮かべますと、抗菌剤問題、遺伝子組換え食品、アレルギー表示問題、食品の不正表示事件、違法食品添加物使用事件、残留農薬問題、BSE問題、SARS騒ぎ、鶏インフルエンザ問題などと次から次へと食品業界を狙い撃ちにしているかのように、問題が山積しております。これらは食品企業のみならず、生活者の食品に対する不信任を増大させ、消費行動にも影響が出ております。また、多くのメーカーは食品の安全・安心を確保するため、その費用も極端に増加しており、収益を圧迫するまでに至っております。これらの問題を同次元と捉える訳にはいきませんが、その要因を考えますと、企業姿勢、行政の遅れ、生活者の過度の期待、海外のインフラの脆弱さなど、様々な問題が絡み合っ引き起こされていると考えられます。これから健全な姿の冷食業界を次の担い手に渡すには、もっと業界各位の結束が必要ではないでしょうか。その意味におきましても、冷凍食品技術研究会の皆さんとの交流を今まで以上に進めて行きたいと思っております。

「冷凍食品技術研究会20年史年表」

年次	冷凍食品技術研究会
1994 (平6年)	<p>1.24~26 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 56名)</p> <p>2.14 「第4回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>5.19 「第1回理事会」開催 於 メルパルク会議室</p> <p>6.14 「編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>6.24 見学会の開催 農林水産省食品総合研究所(茨城県つくば市)</p> <p>6.24 定例総会の開催 茨城県太子町 茨交袋田温泉ホテル(出席者 47名)</p> <p>9. 第27号 会報の発行</p> <p>9.28 発展途上国農水産品貿易フォーラムにおける関係者との座談会 (出席者:インドネシア、タイ、メキシコ、米国6名、当研究会6名 JETRO3名)</p> <p>12. 第28号 会報の発行</p> <p>12.1 「講演会」開催</p> <p>1) 最近の食品の安全性について 代表理事 野口 正見</p> <p>2) 最近のHACCPの動向について (財)日本冷凍食品検査協会 理事長 熊谷 義光</p> <p>3) 海外における食品産業の実情について 味の素株式会社 広域営業本部長 吉川太久磨</p> <p>4) 冷凍素材としての輸入原料の品質と安全性について 株式会社 ニチレイ 味覚評価室長 占部 久</p> <p>会 員 数 82社</p> <p>理 事 者</p> <p>味の素冷凍食品(株) 藤木 正一 宝幸水産(株) 古東 宣勝</p> <p>マルハ(株) 中島 守 明治乳業(株) 岩重 敏美</p> <p>日本水産(株) 有馬 和幸 ライフフーズ(株) 小泉榮一郎</p> <p>(株)ニチレイ 野口 正見 雪印乳業(株) 鍋田 幸蔵</p> <p>(株)ニチロ 鈴木 順晴 (株)フレック関東 小糸 真</p> <p>(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p>

食品業界関連	社会関連の動き
1994年(平成6年)	
	1月 コメ不足価格高騰
	2月 リレハンメル・オリンピック
3月 『輸入食品等事前確認制度の実施について』通知(衛検第119号)	
	4月 細川内閣総辞職、羽田内閣発足
	4月 南ア・マンデラ大統領誕
	4月 中華航空機着陸失敗炎上(名古屋空港)
	5月 英仏海峡トンネル開通
6月 残留農薬基準値設定及び改正(95年1月1日適用)(告示第199号)	6月 羽田内閣総辞職、村山内閣発足
6月 PL法成立	6月 松本サリン事件
	7月 ナポリ・サミット開催
	7月 向井千秋さん宇宙へ
	7月 北朝鮮・金日成主席 死去
9月 鮮魚に対する一酸化炭素の使用について通知(衛乳第141号、衛化第89号)	9月 関西国際空港開港
9月 輸入食品に対するモニタリング検査(残留農薬、抗菌性物質等)強化	
	10月 広島アジア大会開催
	10月 大江健三郎、ノーベル文学賞
	11月 年金改革法(厚生年金の満額支給65歳から)成立
12月 食品等の日付表示を期限表示に改正	

年次	冷凍食品技術研究会
1995 (平7年)	1.25~27 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 60名)
	2. 第29号 会報の発行
	4.24 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室
	5. 9 「編集部会」開催 於 検査協会会議室
	6.30 工場見学会の開催 鈴廣蒲鉾(株)魚肉練製品工場 富士写真フィルム(株)足柄工場
	6.24 定例総会の開催 ホテルサンバレー (伊豆長岡町) (出席者 55名)
	7. 第30号 会報の発行
	7.26 「講演会」開催 きゅりあん(出席者51名)
	1) HACCPについて (財)日本冷凍食品検査協会 村上 公博
	2) ISO9000シリーズについて (株)前川製作所 山口 克幸
	3) PL制度について 農水省消費経済課 小森 栄作
	11.10 「第2回理事会」開催 於 検査協会会議室
	12.14 「講演会」開催
	1) これからの冷凍食品の販売戦略について (株)ニチレイ 専務取締役 中野 勘治
	2) 食品衛生法改正にともなう食品工場のあり方 厚生省乳肉衛生課 課長補佐 桑崎 俊明
3) 冷凍食品工場におけるHACCPの実践と課題 味の素冷凍食品(株) 常勤顧問 藤木 正一 (株)ニチレイ 生産部品質管理課長 新宮 和裕	
会 員 数 83社	
理 事 者	
味の素冷凍食品(株) 藤木 正一 宝幸水産(株) 山田 誠之	
マルハ(株) 須藤 文敏 明治乳業(株) 渋谷 尚武	
日本水産(株) 高橋 敏勝 ライフフーズ(株) 小泉榮一郎	
(株)ニチレイ 野口 正見 雪印乳業(株) 尾崎 顕一	
(株)ニチロ 鎌田 裕 (株)フレック関東 小糸 真	
(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光	

食品業界関連	社会関連の動き
1995年(平成7年)	
	1月 阪神・淡路大震災
	1月 WTO(世界貿易機関)発足
	1月 EU新体制発足
	3月 東京、地下鉄サリン事件
3月 食品衛生法に基づく表示について通知 (衛食第75号、衛乳第51号)期限表示 の表示方法	
3月 横浜・輸入食品検査センター	
4月 食品等の期限表示実施(猶予期間97年 3月末まで)	4月 円が乱高下、1ドル=79円75銭を記録
5月 食品衛生法及び栄養改善法の一部を改 正する法律(法律第101号)天然添加物 の指定制度、総合衛生管理製造過程の 承認制度、検査機関のGMP制度、栄 養表示制度等	4月 コメ市場開放、ミニマムアクセス開始
6月 容器包装リサイクル法公布(施行97年 4月、完全施行00年4月)	
7月 製造物責任(PL)法施行	7月 ベトナムASEANに正式加盟
	7月 コレラ患者急増、多くがバリ島からの 帰国者(7月までに328名)
8月 残留農薬基準値設定(96年3月1日適 用)(告示第161号)	8月 第2次村山内閣発足
8月 『既存添加物名簿』公示(466品目)	
9月 神戸・輸入食品検査センター	9月 仏、核実験を強行
	9月 沖縄の米軍基地問題で紛糾
	10月 東京地裁、オウム真理教に解散命令
	10月 水俣病40年目に解決へ
	11月 新食糧法スタート
	11月 大阪APEC開催
12月 動物用医薬品の残留基準設定(告示第 370号)オキシテトラサイクリン等6品 目	11月 イスラエル・ラビン首相暗殺
12月 食品等輸入届出100万件を超す	12月 オーストラリア生食用カキの輸入認可
	12月 米国FDA、輸入水産加工工場にHA CCP実施を義務付け
	ウインドウズ95日本語版、発売 携帯電話、1000台を超す

年次	冷凍食品技術研究会
1996 (平8年)	1.25~27 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 60名)
	2. 3 「第3回理事会」開催 於 浜松エンパイア
	2.13 「編集部会」開催 於 検査協会会議室
	3. 第31号 会報の発行
	4.15 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室
	5. 第32号 会報の発行
	6. 7 工場見学会の開催 雪印乳業株式会社 群馬工場(粉乳)
	6. 7 定例総会の開催 ホテルグリーンパレス(鬼怒川) (出席者 45名)
	8.28 「第2回理事会」開催 於 検査協会会議室
	9. 第33号 会報の発行
	9. 4 「編集部会」開催 於 検査協会会議室
	11.29 「講演会」開催 きゅりあん(出席者50名)
	1) ハンバーグについて (株)ニチレイ 新宮 和裕
	2) コロッケ・ピザ 雪印乳業(株) 尾崎 顕一
3) 魚肉ソーセージ マルハ(株) 朝倉 征雄	
12. 第34号 会報の発行	
12.14 「講演会」開催	
1) 新製品開発における調理器具としての電子レンジについて 東京ナショナル食品特機(株) エンジニアリング課長 北田 栄吉	
2) 冷凍食品製造における実践HACCP 味の素冷凍食品(株) 取締役技術本部長 常田 武彦	
3) O-157を中心とした食中毒菌の微生物学的考察 東京都衛生研究所 微生物部長 伊藤 武	
会 員 数 79社	
理 事 者	
味の素冷凍食品(株) 常田 武彦 宝幸水産(株) 山田 誠之	
マルハ(株) 須藤 文敏 明治乳業(株) 渋谷 尚武	
日本水産(株) 高橋 敏勝 ライフフーズ(株) 小泉 榮一郎	
(株)ニチレイ 野口 正見 雪印乳業(株) 尾崎 顕一	
(株)ニチロ 鎌田 裕 日本酸素(株) 伊東 敏行	
(財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光	

食品業界関連	社会関連の動き
1996年(平成8年)	
1月 『輸入食品等監視業務基準』制定、検査命令、電子情報による届出ほか	1月 大手スーパー各社が元日営業開始
2月 輸入食品監視支援システム(FAINS)稼働	2月 輸入血液製剤でHIVに感染した血友病患者に厚相が謝罪
	3月 イギリスで狂牛病(BSE)発生
	3月 東京・大阪HIV訴訟和解
	3月 ティオ・コルボーンら『奪われし未来』刊行、環境ホルモン汚染に警告
4月 『既存添加物名簿』公示(489品目)	
4月 加工食品の期限表示スタート	
5月 総合衛生管理製造過程承認制度施行(乳・乳製品、食肉製品)	5月 水俣病訴訟終結
5月 食品衛生法第15条第3項(検査命令)実施、第1号は韓国産二枚貝麻痺性貝毒	
5月 食品衛生法に基づく添加物の表示等通知(衛化第56号)食品中の添加物の物質名、用途名、簡略名、一括名等の表示	
7月 大阪・堺市、病原性大腸菌O-157による大規模食中毒発生	
	8月 O-157を含む腸管出血性大腸菌感染症を伝染病に指定
	8月 遺伝子組換え食品の輸入許可(4種7品目)
9月 残留農薬基準値設定及び改正(97年3月1日適用)(告示第221号)	9月 生鮮野菜5品目に原産地表示を義務化
12月 96年の凍菜輸入量60万トン突破	
	この年、BSE、CJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)などプリオンが公衆衛生上の問題となる

年次	冷凍食品技術研究会																								
1997 (平9年)	<p>1. 29～31 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 50名)</p> <p>2. 25 タイ訪日団との交流会 (出席者: タイ、JETRO-AC事業関係者 7社、JETRO 2名 研究会 4名)</p> <p>3. 27 「第3回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>4. 15 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>6. 第35号 会報の発行</p> <p>6. 6 工場見学会の開催 東海澱粉(株) 新築本社機能システム はごろもフーズ(株)焼津工場(缶詰)</p> <p>6. 6 定例総会の開催 東海澱粉(株)本社会議室(静岡市) (出席者 56名)</p> <p>9. 第36号 会報の発行</p> <p>9. 10 「編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>12. 第37号 会報の発行</p> <p>12. 12 「第2回理事会」及び「編集部会」開催 於 虎ノ門パストラル</p> <p>12. 12 「講演会」開催 1) 総合衛生管理製造過程承認制度における食肉製品業界の 申請状況について (株)日本食肉加工協会 理事検査所長 新村 裕</p> <p>2) 国際標準化機構 ISO9000sとISO14000sについて (株)前川製作所 技術研究所 部長 江崎 寿雄</p> <p>3) ボルフ手法による製造体質の改善 (株)ニチロ 常務取締役 鎌田 裕</p> <p>会 員 数 79社</p> <p>理 事 者</p> <table border="0"> <tr> <td>味の素冷凍食品(株)</td> <td>藤城 實</td> <td>宝幸水産(株)</td> <td>山田 誠之</td> </tr> <tr> <td>マルハ(株)</td> <td>須藤 文敏</td> <td>明治乳業(株)</td> <td>渋谷 尚武</td> </tr> <tr> <td>日本水産(株)</td> <td>高橋 敏勝</td> <td>ライフフーズ(株)</td> <td>小泉榮一郎</td> </tr> <tr> <td>(株)ニチレイ</td> <td>新宮 和裕</td> <td>雪印乳業(株)</td> <td>杉沢良之助</td> </tr> <tr> <td>(株)ニチロ</td> <td>鎌田 裕</td> <td>日本酸素(株)</td> <td>伊東 敏行</td> </tr> <tr> <td>(財)日本冷凍食品検査協会</td> <td>熊谷 義光</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	味の素冷凍食品(株)	藤城 實	宝幸水産(株)	山田 誠之	マルハ(株)	須藤 文敏	明治乳業(株)	渋谷 尚武	日本水産(株)	高橋 敏勝	ライフフーズ(株)	小泉榮一郎	(株)ニチレイ	新宮 和裕	雪印乳業(株)	杉沢良之助	(株)ニチロ	鎌田 裕	日本酸素(株)	伊東 敏行	(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光		
味の素冷凍食品(株)	藤城 實	宝幸水産(株)	山田 誠之																						
マルハ(株)	須藤 文敏	明治乳業(株)	渋谷 尚武																						
日本水産(株)	高橋 敏勝	ライフフーズ(株)	小泉榮一郎																						
(株)ニチレイ	新宮 和裕	雪印乳業(株)	杉沢良之助																						
(株)ニチロ	鎌田 裕	日本酸素(株)	伊東 敏行																						
(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光																								

食品業界関連	社会関連の動き
1997年(平成9年)	
	2月 FAINS(輸入食品監視支援システム)とNACS(税関の通関情報処理システム)とのインターフェイス化
3月 動物医薬品の残留基準設定(告示第72号)スルファジミジン等5品目	
4月 容器包装リサイクル法施行	4月 消費税、5%に引上げ 日本冷凍協会、日本冷凍空調学会に名称変更
7月	7月 香港、中国に返還、特別行政区となる
	7月 台湾、口蹄疫発生
	7月 アジア通貨危機
9月 残留農薬基準値設定(98年3月1日適用)(告示第179号)	8月 ダイアナ元英皇太子妃、交通事故死
	9月 ヤオハンジャパン倒産
	12月 介護保険法 成立

年次	冷凍食品技術研究会
1998 (平10年)	<p>1.22~24 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 38名)</p> <p>2. 第38号 会報の発行</p> <p>3.11 「セミナー」開催きゅりあん(出席者 62名)</p> <p>1) 厚生省におけるHACCP法対応 厚生省生活衛生局 乳肉衛生課 豊福 肇</p> <p>2) 我が国の水産業におけるHACCPの方向 水産庁 漁政部 水産加工課 長島 徳雄</p> <p>3) 魚肉加工工場におけるHACCPの取り組み (株)ゼンチク マクドナルド千葉工場 柳本 昭則</p> <p>4) HACCP導入に至る生産体制について 宝幸水産(株) 生産管理部 出利羽 徹</p> <p>3.23 「第3回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>4.12 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>5.19 「第1回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>6. 第39号 会報の発行</p> <p>6.5 工場見学会の開催 (ISO14000導入状況見学) (株)コープフーズ</p> <p>6.5 定例総会の開催 ホテル松本楼(伊香保町) (出席者 50名)</p> <p>9. 第40号 会報の発行</p> <p>9.1 「第2回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>10.6 「第2回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>11.16 「第3回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>12. 第41号 会報の発行</p> <p>12.4 「講演会」開催</p> <p>1) 冷凍食品工場のISO9002の取得と経過について (株)ニチロ 石巻工場 製造課長 松岡 信人</p> <p>2) 市乳工場における総合衛生管理製造過程の承認と その後の経過管理について 明治乳業(株) 加工食品生産開発部長 新堀 誠治</p> <p>3) 冷凍食品販売の現況と今後の動向 味の素(株) 取締役冷凍食品部長 山口 範雄</p> <p>会 員 数 77社</p> <p>理 事 者</p> <p>味の素冷凍食品(株) 藤城 實 宝幸水産(株) 山田 誠之 マルハ(株) 須藤 文敏 明治乳業(株) 新堀 誠治 日本水産(株) 井原 直人 ライフフーズ(株) 小泉榮一郎 (株)ニチレイ 新宮 和裕 雪印乳業(株) 杉沢良之助 (株)ニチロ 鎌田 裕 日本酸素(株) 伊東 敏行 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷義光</p>

食品業界関連	社会関連の動き
<p>1998年(平成10年)</p> <p>1月 総合衛生管理製造過程による最初の承認(乳・乳製品86施設、177件)</p> <p>7月 冷食に小分トレイ各社導入</p> <p>10月 残留農薬基準値設定(99年4月1日適用)(告示第24号)</p> <p>11月 殻付き鶏卵の表示基準、液卵の規格基準設定</p>	<p>2月 長野冬季オリンピック</p> <p>2月 金大中・韓国大統領</p> <p>4月 明石海峡大橋 開通</p> <p>5月 スハルト大統領 退陣 貴乃花・若乃花、兄弟横綱 誕生</p> <p>5月 環境庁、『環境ホルモン戦略計画SPEED'98』公表</p> <p>7月 小淵内閣 発足</p> <p>7月 和歌山 毒入りカレー事件</p> <p>8月 北朝鮮ミサイル『テポドン』、三陸沖に着弾</p> <p>9月 黒沢明・映画監督 死去</p> <p>11月 日韓新漁業協定締結(99年1月発効) 竹島付近に暫定水域、共同資源管理 イカ乾製品による広域サルモネラ食中毒(98年12月~99年4月 患者1,634名)</p>

年次	冷凍食品技術研究会
1999 (平11年)	<p>2. 1～2 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 53名)</p> <p>2. 第42号 会報の発行</p> <p>3. 10 「第3回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>4. 16 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>6. 4 工場見学会の開催 (株)ひたちなか極洋本社工場</p> <p>6. 5 定例総会の開催 茨交大洗ホテル (出席者 61名)</p> <p>6. 30 「第1回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>6. 第43号 会報の発行</p> <p>8. 23 「第2回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>9. 第44号 会報の発行</p> <p>12. 10 「第3回理事会」開催 於 虎ノ門パストラル</p> <p>12. 第45号 会報の発行</p> <p>12. 10 「講演会」開催</p> <p>1) 新JAS法の視点について 農林水産省品質課 食品加工班 課長補佐 佐藤 恵</p> <p>2) 遺伝子組換え食品の現状と今後の展開について 農林水産省品質課 食品表示対策室 課長補佐 川村 和彦</p> <p>3) 最近の冷凍食品業界における技術的諸問題について (HACCP支援法、自主認定基準への対応、食品廃棄物リサイクル) (株)日本冷凍食品協会 専務理事 川合 英一 理 事 大場 秀夫</p> <p>会 員 数 77社 理 事 者</p> <p>味の素冷凍食品(株) 藤城 實 宝幸水産(株) 原 祐二郎 マルハ(株) 須藤 文敏 明治乳業(株) 新堀 誠治 日本水産(株) 井原 直人 ライフフーズ(株) 小泉榮一郎 (株)ニチレイ 新宮 和裕 雪印乳業(株) 杉沢良之助 (株)ニチロ 鎌田 裕 日本酸素(株) 伊東 敏行 財団法人冷凍食品検査協会 熊谷 義光</p>

食品業界関連	社会関連の動き
<p>1999年(平成11年)</p> <p>2月 マグロ・ブリ等への一酸化炭素の使用に関する取扱いについて(衛乳第29号、衛化第5号)</p> <p>4月 『感染症新法』施行 O-157が3類感染症として整理される</p> <p>5月 冷食協30周年式典</p> <p>6月 食品等の輸入手続きを簡素迅速にするため計画輸入の対象品目を拡大(省令第70号)</p> <p>7月 JAS法改正(すべての飲食料品に表示義務、生鮮食料品の原産地(輸入品は生産国)表示、有機食品の検査・認証制度)</p> <p>8月 遺伝子組換え食品30品目に表示の義務付け通知(01年4月施行)</p> <p>11月 残留農薬基準値設定及び改正(00年4月1日適用)(告示第237号)</p> <p>12月 動物医薬品の残留基準設定(告示第239号)スピラマイシン等4品目</p>	<p>1月 EU域内11カ国の単一通貨『ユーロ』誕生</p> <p>2月 所沢の野菜にダイオキシン汚染騒動</p> <p>4月 コメの輸入障壁を数量制から『関税制』に切替え</p> <p>4月 輸入鶏肉によるバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染患者が報告される</p> <p>7月 ダイオキシン類対策特別措置法公布(00年1月施行)ダイオキシン類の摂取量(TDI)を体重1kg当たり4ピコグラム以下と規定</p> <p>7月 食料・農業・農村基本法 公布・施行(法律第106号)</p> <p>7月 NTT、分割・再編</p> <p>8月 国旗・国歌法、公布・施行</p> <p>8月 トルコ大地震</p> <p>9月 台湾大地震</p> <p>9月 東海村JCO、臨界事故</p> <p>10月 中国、建国50周年式典 世界人口、60億人を突破(国連発表)</p> <p>12月 中央省庁等改革関係法成立(省庁再編施行日:01年1月6日)</p> <p>バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)、メチシリン耐性ブドウ球菌(MRSA)などの院内感染多発</p> <p>NATO軍、ユーゴ空爆 世界人口 60億突破</p>

年次	冷凍食品技術研究会																								
2000 (平12年)	<p>1. 24~25 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(受講者 49名)</p> <p>2. 29 「第3回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>3. 第46号 会報の発行</p> <p>3. 15 「第3回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>4. 27 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>5. 10 「第1回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>6. 第47号 会報の発行</p> <p>6. 9 工場見学会の開催 カネコ種苗(株)波志江研究所 くにさだ育種農場</p> <p>6. 5 定例総会の開催 ホテル轟(伊香保町) (出席者 48名)</p> <p>9. 1 「第2回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>9. 第48号 会報の発行</p> <p>10. 27 「第2回理事会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>11. 2 「第3回編集部会」開催 於 検査協会会議室</p> <p>12. 第49号 会報の発行</p> <p>12. 10 「講演会」開催</p> <p>1) 食品冷凍・冷蔵の基本について 元中央水産研究所 冷凍研究室長 田中 武夫</p> <p>2) 南極・昭和基地の食料について 国立 極地研究所 福地 光男</p> <p>3) 食品異物混入対策について イカリ消毒(株) 環境文化創造研究所 室長 邑井 良守</p> <p>会員数 73社</p> <p>理事者</p> <table border="0"> <tr> <td>味の素冷凍食品(株)</td> <td>常田 武彦</td> <td>宝幸水産(株)</td> <td>原 祐二郎</td> </tr> <tr> <td>マルハ(株)</td> <td>須藤 文敏</td> <td>明治乳業(株)</td> <td>新堀 誠治</td> </tr> <tr> <td>日本水産(株)</td> <td>井原 直人</td> <td>ライフフーズ(株)</td> <td>小泉 榮一郎</td> </tr> <tr> <td>(株)ニチレイ</td> <td>千葉 充幸</td> <td>雪印乳業(株)</td> <td>杉沢 良之助</td> </tr> <tr> <td>(株)ニチロ</td> <td>鎌田 裕</td> <td>日本酸素(株)</td> <td>伊東 敏行</td> </tr> <tr> <td>(財)日本冷凍食品検査協会</td> <td>熊谷 義光</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	味の素冷凍食品(株)	常田 武彦	宝幸水産(株)	原 祐二郎	マルハ(株)	須藤 文敏	明治乳業(株)	新堀 誠治	日本水産(株)	井原 直人	ライフフーズ(株)	小泉 榮一郎	(株)ニチレイ	千葉 充幸	雪印乳業(株)	杉沢 良之助	(株)ニチロ	鎌田 裕	日本酸素(株)	伊東 敏行	(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光		
味の素冷凍食品(株)	常田 武彦	宝幸水産(株)	原 祐二郎																						
マルハ(株)	須藤 文敏	明治乳業(株)	新堀 誠治																						
日本水産(株)	井原 直人	ライフフーズ(株)	小泉 榮一郎																						
(株)ニチレイ	千葉 充幸	雪印乳業(株)	杉沢 良之助																						
(株)ニチロ	鎌田 裕	日本酸素(株)	伊東 敏行																						
(財)日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光																								

食品業界関連	社会関連の動き
2000年(平成12年)	
5月 食品リサイクル法成立	1月 ダイオキシソ類対策特別措置法施行
5月 組換えDNA技術応用食品及び添加物の安全性審査の手続き(『審査手続告示』)、及び製造基準の制定(『製造基準告示』)(告示233、234号)	3月 台湾総統に陳水扁 就任
6月 動物医薬品の残留基準設定(告示第275号) オキシテトラサイクリン等5品目	3月 北海道・有珠山噴火
6月 雪印乳業食中毒事件	4月 情報公開法 施行
7月 JAS法、生鮮食品の原産地表示を適用	4月 小淵首相急逝、森喜朗内閣発足
	4月 介護保険法 施行
	5月 プーチン・ロシア大統領就任
10月 GMO『スターリンク』混入事件、トウモロコシ加工品から	6月 朝鮮半島分断後、初の南北首脳会談
11月 日本食品標準成分表、5訂版刊行	6月 食肉製品のO-157検査ミス事件(埼玉・川越保健所)
11月 総合衛生管理製造過程承認制度実施要領の改定(生衛発第1634号) 雪印乳業食中毒事件に対応	7月 そごう百貨店、倒産
12月 残留農薬基準値改正(同日適用)(告示第369号)	7月 2000円札 発行
この年、食中毒・異物混入続発、消費者・マスコミの関心が高まる	7月 パリ郊外でコンコルド墜落
	7月 沖縄サミット
	8月 ロシア原潜クルクス沈没
	9月 シドニー・オリンピック
	9月 みずほフィナンシャル・グループ、スタート
	9月 三宅島、大規模噴火、全島避難
	10月 白川英樹、ノーベル化学賞
	11月 旧石器遺跡の発掘で捏造発覚
	11月 ベルー・フジモリ大統領罷免
	11月 BSE発生国から牛肉等の輸入禁止
	12月 厚生省「食の安全推進アクションプラン」発表

年次	冷凍食品技術研究会
2001 (平13年)	1.30~31 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん
	2.15 「第4回編集部会」開催 於 検査協会会議室
	3. 第50号 会報の発行
	3.27 「第3回理事会」開催 於 検査協会会議室
	4.19 「第1回編集部会」開催 於 検査協会会議室
	5. 第51号 会報の発行
	5.2 「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室
	6.15 工場見学会の開催 明治乳業(株)守谷工場
	6.15 定例総会の開催 つくばグランドホテル(つくば市) (出席者 46名)
	9.7 「第2回編集部会」開催 於 検査協会会議室
	9. 第52号 会報の発行
	10.1 「第2回理事会」開催 於 検査協会会議室
	10.1 「第3回編集部会」開催 於 検査協会会議室
	12.4 「第4回編集部会」開催 於 検査協会会議室
	12. 第53号 会報の発行
	12.14 「講演会」開催 1) 牛海綿状脳症(BSE)に関する新しい知見について 厚生労働省医薬局 食品保健部監視安全課 蟹江 誠 2) アレルギー表示について 厚生労働省医薬局 食品保健部企画課 大井 祐司 3) JAS法による食品表示と遺伝子組換えについて 独立行政法人 農林水産消費技術センター 川村 和彦
	会員数 75社
	理事者 味の素冷凍食品(株) 常田 武彦 宝幸水産(株) 原 祐二郎 マルハ(株) 須藤 文敏 明治乳業(株) 浦野 研一 日本水産(株) 井原 直人 ライフフーズ(株) 小泉榮一郎 (株)ニチレイ 千葉 充幸 雪印乳業(株) 梅澤 一民 (株)ニチロ 鎌田 裕 日本酸素(株) 伊東 敏行 (財)日本冷凍食品検査協会 熊谷 義光

食品業界関連	社会関連の動き
2001年(平成13年)	1月 米大統領にブッシュ就任
2月 残留農薬基準値設定及び改正(01年4月1日適用)(告示第56号)	
3月 『アレルギー物質を含む食品に関する表示Q&A』(食企発第2号、食監発第46号)	
3月 『遺伝子組換え食品に関する表示Q&A』(食企発第3号、食監発第47号)	
4月 遺伝子組換え食品、表示義務化実施(JAS法改正)	4月 消費者契約法 施行
6月 動物医薬品の残留基準設定(告示第258号)チルミコシン等4品目	4月 森喜朗内閣退陣、小泉純一郎内閣発足
7月 残留農薬基準値設定(01年10月1日適用)(告示第258号)	7月 インドネシア大統領にメガワティ就任
8月 日本水産の塩味茹で枝豆の特許取得で業界に波紋(12月、各社無効審判請求)	
	9月 アメリカで同時多発テロ
	9月 農水省、国内初のBSE発生(千葉県)を正式発表
	10月 米 テロの報復、アフガニスタン空爆開始
	10月 解体される牛の全頭検査始まる
	10月 野依良治、ノーベル化学賞
11月 残留農薬基準値改正(同日適用)(告示第361号)	11月 アフガニスタン、タリバン政権崩壊
12月 産経新聞「中国野菜47%に残留農薬」の記事掲載。中国産野菜の残留農薬問題始まる	11月 中国 WTO加盟、台湾も
	12月 皇太子妃雅子さま、女子出産、愛子と命名
	12月 アフガニスタン暫定行政機構 発足

年次	冷凍食品技術研究会		
2002 (平14年)	1. 28~29	「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん	
	2. 12	ベトナム水産加工ミッションとの意見交換会 (出席者：ベトナム関係者5名、JETRO 2名、研究会 13名)	
	2. 18	「第5回編集部会」開催 於 検査協会会議室	
	3.	第54号 会報の発行	
	4. 5	「第1回理事会」開催 於 検査協会会議室	
	5. 21	「第1回編集部会」開催 於 検査協会会議室	
	5.	第55号 会報の発行	
	6. 7	工場見学会の開催 日本原子力研究所 高崎研究所	
	6. 15	定例総会の開催 水上ホテル聚落 (水上市) (出席者 38名)	
	9. 6	「第2回編集部会」開催 於 検査協会会議室	
	9.	第56号 会報の発行	
	10. 2	「第2回理事会」開催 於 検査協会会議室	
	12. 2	「第3回編集部会」開催 於 検査協会会議室	
	12.	第57号 会報の発行	
12. 14	「講演会」開催		
	1)	最近の食品添加物行政の動向 厚生労働省医薬局 食品保健部基準課 吉田 易範	
	2)	食品中の残留農薬について 東京都立衛生研究所 食品研究科 永山 敏廣	
	3)	中国野菜における残留農薬管理について ㈱ニチレイ 品質保証部長 山本 宏樹	
	会 員 数	72社	
	理 事 者		
	味の素冷凍食品㈱	常田 武彦	宝幸水産㈱ 矢島 亮一
	マルハ㈱	須藤 文敏	明治乳業㈱ 望月 正人
	日本水産㈱	井原 直人	ライフフーズ㈱ 小泉 榮一郎
	㈱ニチレイ	千葉 充幸	雪印乳業㈱ 幸田 昇
	㈱ニチロ	赤井田 一郎	日本酸素㈱ 伊東 敏行
	㈱日本冷凍食品検査協会	熊谷 義光	

	食品業界関連	社会関連の動き
	2002年(平成14年)	
1月	厚労省「中国産野菜検査強化月間」実施	1月 ブッシュ米大統領、一般教書演説で北朝鮮、イラク、イランを「悪の枢軸」と名指し
1月	BSE対策による国の買取り制度を悪用、雪印食品牛肉偽装事件(4月、同社倒産。その後、日本フードなども)	1月 欧州単一通貨「ユーロ」流通開始
2月	残留農薬基準値設定(02年4月1日適用)(告示第94号)	2月 ソルトレークシティ五輪 開幕
3月	各社の鶏肉偽装事件(全農チキンフーズなど)	2月 ブッシュ米大統領 来日
3月	国内民間団体が行った検査で、中国産冷凍ホウレンソウから生鮮ホウレンソウの残留基準値を超える農薬「クロルピリホス」検出。厚労省、モニタリング検査(10%)を開始	2月 ユーゴのコソボ自治政府 正式発足
4月	厚労省、中国産生鮮・冷凍ホウレンソウについて100%モニタリング検査に移行	3月 16日に気象庁、例年に無く早い東京のサクラ開花宣言
5月	厚労省、中国産生鮮・冷凍ホウレンソウ輸入者に対して全輸入届出について届出ごとの「クロルピリホス」にかかわる検査を指示(その後、ディルドリン、アルドリンおよびエンドリンについても同様の指示)	4月 学校の完全週5日制スタート
5月	輸入食品の指定外添加物TBHQ(酸化防止剤)問題	4月 第一勧業、富士、日本興業の3行統合、『みずほ銀行』営業開始
5月	厚労省、中国政府に対し農薬残留の原因調査を要請	5月 東チモール 独立
5月	協和香料化学などの指定外添加物の使用事件	5月 中国・瀋陽の日本総領事館に北朝鮮を脱出した一家5人の駆込み事件
6月	厚労省、法違反に係わる輸入者名の公表開始	5月 経団連と日経連統合、日本経団連発足
7月	改正JAS法、BSE対策特別措置法施行	5月 日韓共同開催のサッカーW杯開会
7月	輸入食塩の指定外添加物(固結防止剤、フェロシアン化物)問題(8月、厚労省、フェロシアン化物を指定)	6月 主要国首脳会議(カナナスキス・サミット)
7月	冷凍ホウレンソウを含む加工野菜について、検査命令の対象品目に追加する政令改正を公布(8月施行)	7月 アフリカ連合(AU)発足、加盟53ヵ国
7月	厚労省、中国産冷凍ホウレンソウの輸入自粛を指導(03年2月、解除)	7月 中国産ダイエット食品の服用者で死亡4名、800名以上の肝臓障害などの健康被害を受ける
8月	中国産冷凍ホウレンソウの残留農薬問題から、食品衛生法の一部改正による輸入禁止措置制度を公布(9月施行)	
8月	国内で無登録農薬の使用が問題化	9月 海上保安庁 北朝鮮工作船引き揚げ
		9月 小泉首相 日朝平壤宣言に署名
		10月 北朝鮮拉致被害者5名24年ぶりに帰国
		10月 インドネシア・バリ島 爆弾テロ事件
		10月 チェチェン武装勢力によるモスクワの劇場占拠事件
		11月 ノーベル賞、小柴昌俊に物理賞、田中耕一に化学賞
12月	農薬取締法改正、不適正な農薬使用に罰則(03年3月 施行)	12月 イネゲノム、日本主導で完全解読

年次	冷凍食品技術研究会
2003 (平15年)	1.29~30 「食品冷凍講習会」開催 きゅりあん(参加者 31名) 3. 4 「第4回編集部会」開催 於 検査協会会議室 3. 第58号 会報の発行 3.19 「第3回理事会」開催 於 検査協会会議室

食品業界関連	社会関連の動き
2003年(平成15年) 2月 日本水産が取得、ニチロ審判請求の「塩味茹で枝豆」特許に無効の審決。これとは別に、日本水産がニチロに「特許を侵害された」として販売差止めと損害賠償を求めていた裁判で東京地裁は日本水産の請求を棄却 3月 冷凍野菜の原産地表示実施 4月 日本水産は「塩味茹で枝豆」の特許を侵害したとしてニチレイとノースイに損害賠償を求めていた訴訟で、両社に対する請求をすべて放棄 5月 食品安全基本法成立 5月 個人情報保護法成立 5月 0-157訴訟、カイワレ業者逆転勝訴 6月 冷凍食品技術研究会 創設20周年	2月 韓国大統領に盧武鉉氏就任 3月 中国全国人民代表大会、国家首席に胡锦涛党総書記、首相に温家宝副首相が就任 3月 米英、対イラク戦争勃発 3月 世界水フォーラム及び閣僚級会合(京都・滋賀・大阪) 3月 WTO農業交渉「自由化の大枠」(モダリティー)で合意できず、決裂 3月 新型肺炎 SARSウイルス、東アジア各地で猛威 4月 日本郵政公社 発足 4月 サラリーマンの医療費自己負担率、2割から3割に 4月 年金支給額の物価スライド復活 4月 魚介類名称、水産庁ガイドライン適用 4月 バグダッド陥落、フセイン政権崩壊

<日冷検情報>

首都圏に新横浜事業所が誕生

私たち、財団法人 日本冷凍食品検査協会は、公益法人として、1949年に設立以来、食品の試験・検査のエキスパートとして、「食の安全・安心」に貢献してまいりました。

今後も、さらに社会のニーズに対応するため、試験・分析体制整備の一環として、横浜市金沢区に新事業所を誕生させました。

新横浜事業所の使命

1 首都圏検査ニーズ

新横浜事業所は、首都圏の皆様にご利用いただける高機能・大型の試験分析施設です。

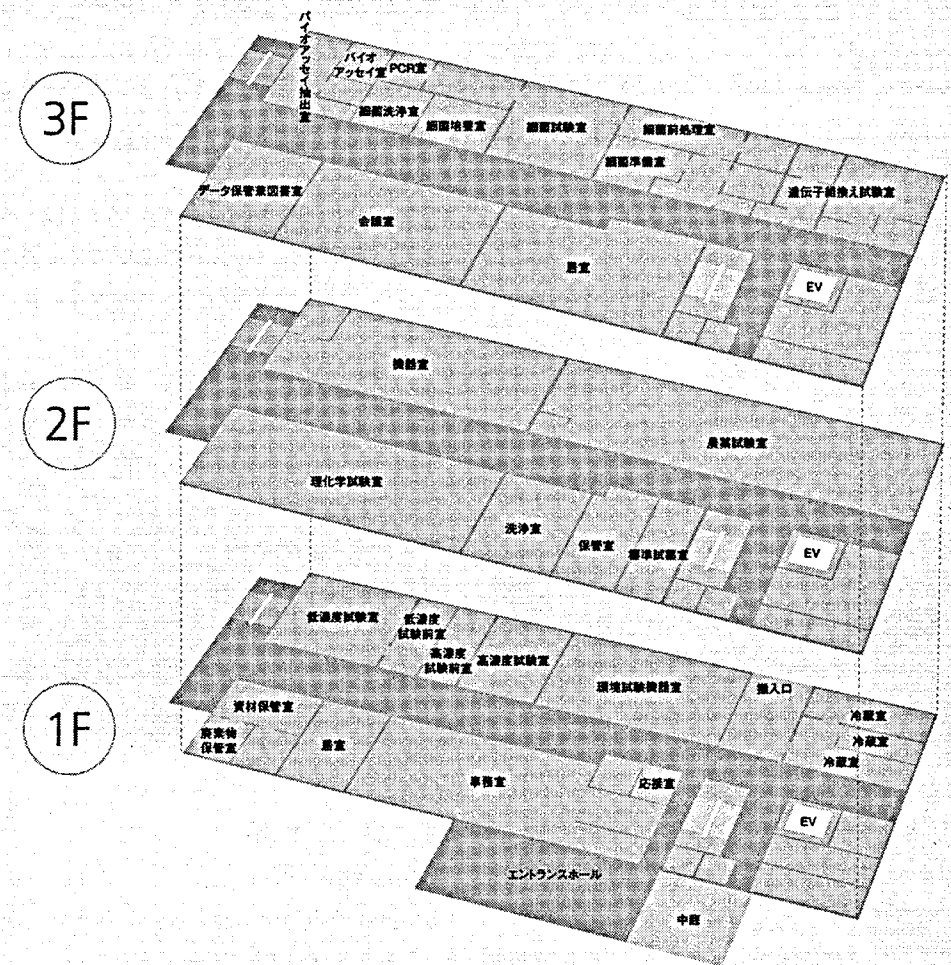
2 バックアップ

(財)日本冷凍食品検査協会は、公的検査機関として、新横浜事業所を中心に皆様の品質管理を協力的にバックアップします。

3 迅速・正確・確実

首都圏の受付、サンプリング、分析の3機能を有機的に連携・強化します。

財団法人 日本冷凍食品検査協会 横浜事業所 概要



財団法人 日本冷凍食品検査協会

- 本部
〒105-0012 東京都港区芝大門2-12-7 秀和第2芝パークビル8階
電話 03-3438-1411 FAX 03-3438-1980
URL <http://www.jflic.or.jp>
- 横浜事業所
〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦2-13-45
電話 045-781-9211 FAX 045-784-8110

<編集後記>

わたしたちの冷凍食品技術研究会が発足して、早いもので、今年の7月で20周年を迎えます。

関西の冷凍食品技術研究会は当研究会よりかなり早く1979年に、当時（財）日本冷凍食品検査協会神戸検査所所長の日冷検元理事長の熊谷義光氏の呼び掛けで設立され、今日まで活動しています。熊谷氏は1982年に東京へ転勤され、日冷検の理事に就任されましたが、関西の研究会の活動が有意義であるという在京の冷凍食品各社の声に応じて早速、熊谷氏が音頭取りになって、関東地区の研究会の設立が諮られました。

1983年5月25日、各社の有志11名が冷凍食品技術研究会設立発起人として集い、熊谷氏と研究会の規約と入会案内を作成。同年6月8日に冷凍食品技術研究会（仮称）の設立準備委員会を開催、18名の出席者の同意を得て、入会案内書を6月10日付けで関東地区の冷凍食品各社に発送し、お誘いしました。

設立準備委員会の各氏を敬称を略して記すと次の通りです。日本水産・有馬、日本冷蔵・遠藤、日魯漁業・城戸、大洋漁業・小泉、味の素・小杉、味の素冷凍食品・藤木、雪印乳業・新田、フレック関東・久本、サンバーグ・井口、明治乳業・横田、日本デルマール食品・田口、日本冷凍食品検査協会・熊谷。

本研究会設立の趣旨は、入会案内書に記載されていますので、次にその一部を抜粋します。

“冷凍食品業界も高度成長期から安定成長期に入り、消費者ニーズにマッチした品質の向上と新製品開発、生産コストの低減が強く要請されております。

このような状況におきまして、冷凍食品の生産技術、品質・衛生管理等、共通の技術的問題を研究し、製品の品質、衛生水準を高めるとともに、技術者の資質の向上を図り、また、会員相互の連絡を密にするため、関西で70社が参加して活発な活動をしている「冷凍食品技術研究会」のような技術研究会を関東地区でも設立の要望が冷凍食品メーカーの間で高まっております。”

冷凍食品技術研究会設立総会は、83年7月14日、東京農林年金会館において、出席者58名により開催されました。初年度の会員は81社、代表理事には味の素冷凍食品（株）の藤木正一氏を選任しました。

本誌「冷凍食品技術研究」の発行は、その後、機関誌の必要性が理事会において話し合わせ、85年（昭和60年）5月に第1号を上梓しました。ただ、当初の約束通りに年間4回の発行が確実にできるようになったのは1997年からです。

本誌の発行は、会員への情報の提供と会員相互の密な連絡とを目的にしています。本研究会設立の趣旨に則って、より良き有益な情報の提供に今後も努めてゆきたいと編集委員一同考えています。

（小泉）

編 集 委 員	小 泉 栄一郎 (ライフフーズ)	発 行 所	冷凍食品技術研究会	
	東 島 直 貴 (アクリフーズ)		〒105-0012	
	坂 本 隆 (日本水産)		東京都港区芝大門2-4-6	
	佐々木 勇 人 (マルハ)		豊国ビル 財団法人冷凍食品検査協会内 (TEL)03-3438-1414 (FAX)2747	